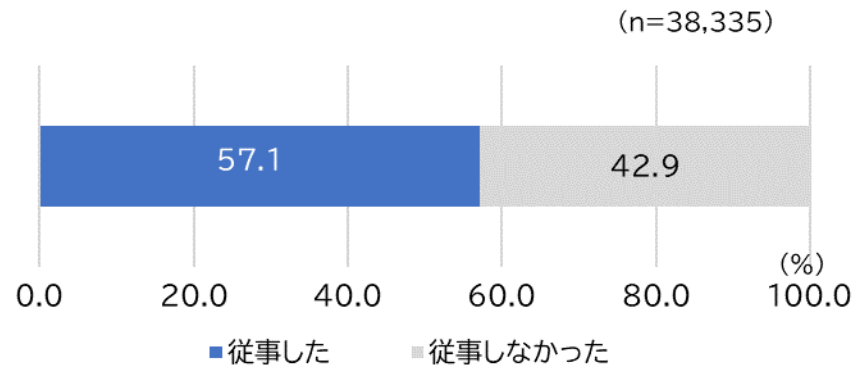


1.回答者のプロフィール

- 99.6%が就業中
- 就業中の回答者のうち、92.1%が「正職員」
- 就業場所または在住場所は「東京都」7.6%、「大阪府」7.3%、「福岡県」5.5%が続く
- 勤務先は「病院」が86.4%、「訪問看護ステーション」6.2%が続く
- 「病院」の場合、39.4%が「500床以上」の病院に勤務
- 現在の主な業務は91.8%が「看護師」であり、「助産師」3.1%、「保健師」1.2%
- 「非管理職」が71.1%、「中間管理職」が23.7%

図1 新型コロナウイルス感染症対応に関する業務に従事したか
(1月頃～緊急事態宣言解除・5月まで)



※現在「就業中」と回答した38,335人が対象

2. 新型コロナウイルス感染症発生に伴う働き方(1月頃～緊急事態宣言解除・5月まで)

- 看護職員として最も多かった働き方は、「自身は対応していないが感染者を受け入れた・受け入れる予定のあった施設等の勤務」が42.1%を占め、「勤務先での感染防御対策に関する体制整備」が続く
- 感染者・疑いのある者への直接の対応は、上位3位以降にあげられている
- 「重症患者に対応」は6.1%であった

表1 新型コロナウイルス感染症対応に関する働き方

	件数	割合(%)		件数	割合(%)
自身は対応していないが感染者を受け入れた・受け入れる予定のあった施設等の勤務	9,223	42.1	電話・メール・WEBによる相談対応(夜間)	1,158	5.3
勤務先での感染防御対策に関する体制整備(研修実施、マニュアル作成、環境整備等)	7,110	32.5	感染者の家族への支援・指導	1,095	5.0
PCR検査の検体採取	4,478	20.4	退院時の調整・フォロー	1,063	4.9
軽症患者に対応	4,227	19.3	クラスター発生時の対応(対策本部の設置、ゾーニング、入院調整、受診調整等)	630	2.9
帰国者・接触者相談外来・発熱外来等での感染疑いのある者への対応	3,668	16.7	地域住民からの苦情対応	576	2.6
中等症患者に対応	2,574	11.8	看護職確保のための関係機関との調整	571	2.6
電話・メール・WEBによる相談対応(日中)	2,546	11.6	クラスター発生病棟や地域の施設等への応援	202	0.9
その他	2,367	10.8	外国人入国者の健康観察	121	0.6
勤務先の職員・家族が感染者となった際の対応	1,686	7.7	認定看護師、専門看護師の派遣のための調整	126	0.6
PCR検査受診者への結果報告	1,594	7.3	積極的疫学調査の実施	107	0.5
重症患者に対応	1,337	6.1	計	21,906	100.0
陽性者への治療または療養生活の説明	1,191	5.4			

※現在「就業中」、かつ、コロナ対応業務に「従事した」と回答した21,906人が対象

看護職員の新型コロナウイルス感染症対応に関する実態調査【個人】 集計結果概要

3. 新型コロナウイルス感染症発生に伴う労働環境の変化(1月頃～緊急事態宣言解除・5月まで)

- 看護職員の労働環境について、①超過勤務時間、②有給休暇、③夜勤・オンコール回数・時間の増減、④夜勤・オンコール回数・時間の偏り、⑤勤務中の仮眠・休息、⑥在宅勤務への移行、⑦相談電話対応、⑧患者・利用者トラブル対応 の8点から変化を質問した
- 全ての項目で「変わらない」が最も多くを占めるが、①超過勤務時間は34.4%が増えたと回答し、②有給休暇も26.5%が「取りにくくなった」と回答した

図2 労働環境:①超過勤務時間(1か月あたりの合計時間)

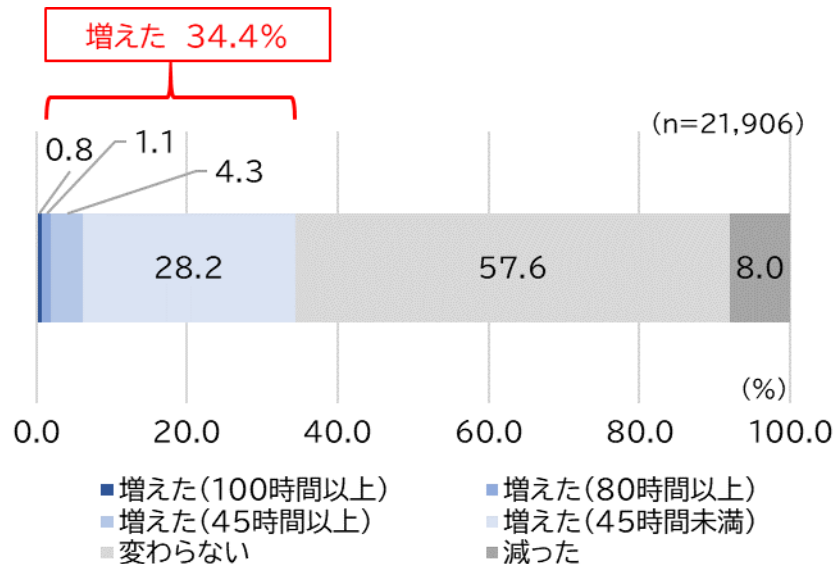
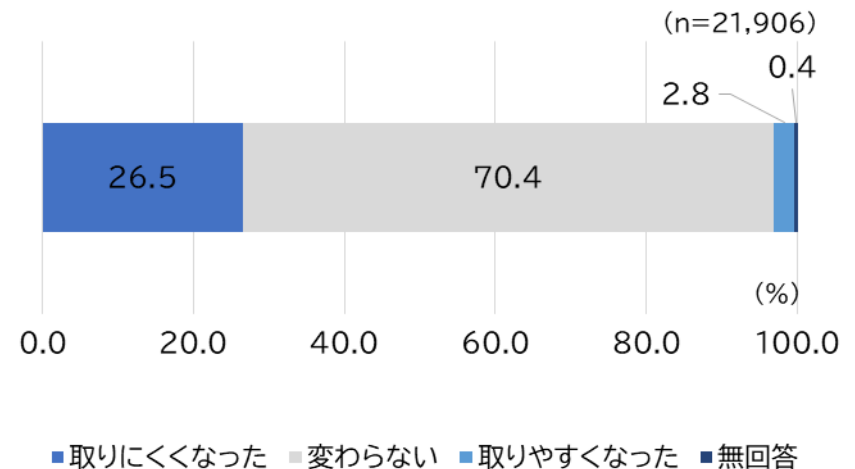


図3 労働環境:②有給休暇



※現在「就業中」、かつ、コロナ対応業務に「従事した」と回答した21,906人が対象

3.新型コロナウイルス感染症発生に伴う労働環境の変化(続き)(1月頃～緊急事態宣言解除・5月まで)

○8点のうち、看護職員の労働に負荷がかかったという回答が多かったのは、⑦相談電話対応、⑧患者・利用者トラブル対応である

図4 労働環境:⑦相談電話対応

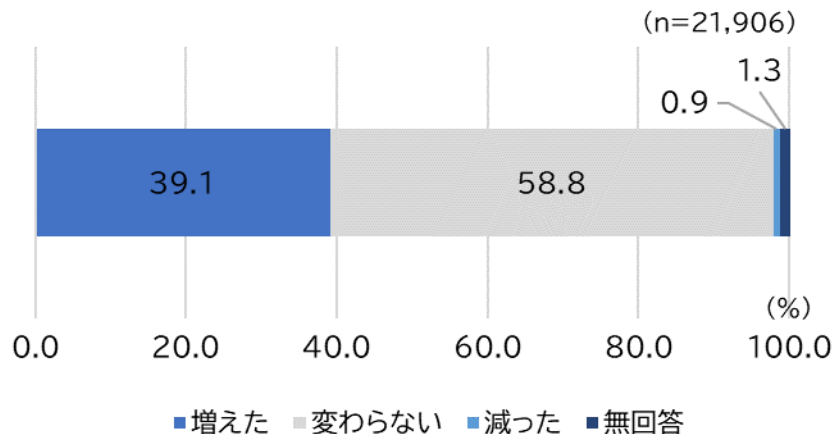
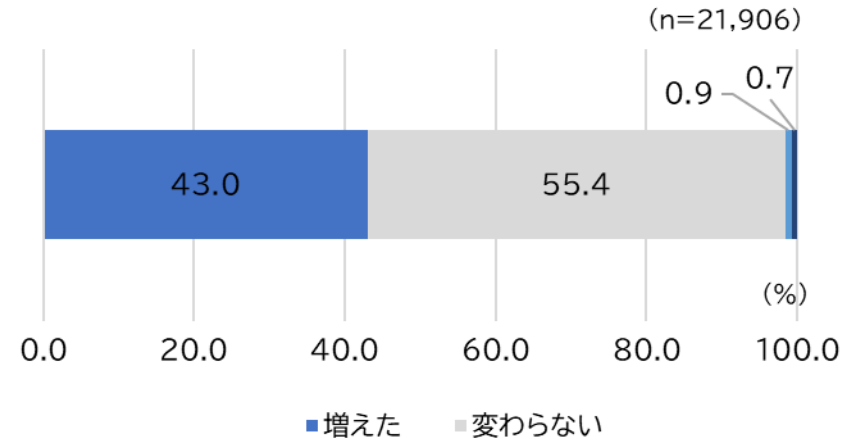


図5 労働環境:患者・⑧利用者トラブル対応



※現在「就業中」、かつ、コロナ対応業務に「従事した」と回答した21,906人が対象

4.危険手当

○危険手当が支給されなかった人と、支給された人(今後支給される予定も含む)が同程度見られる

図6 危険手当の支給の有無

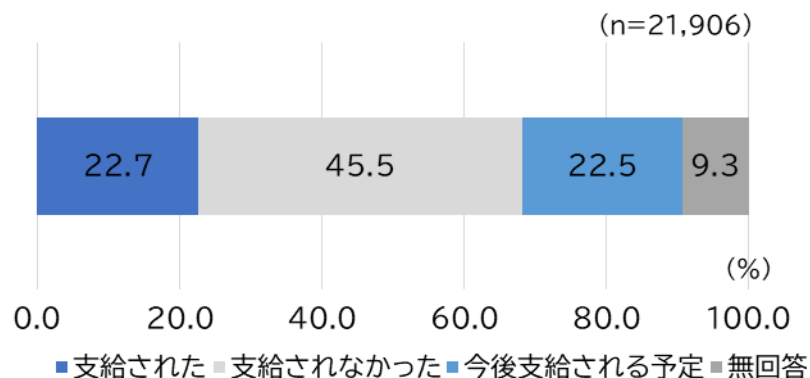
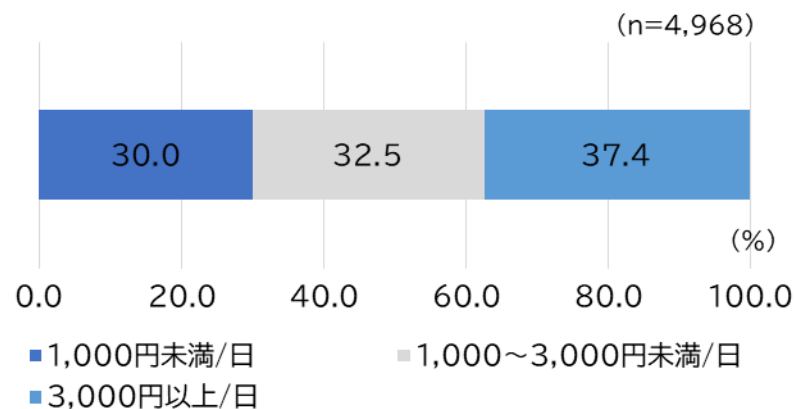


図7 危険手当の額



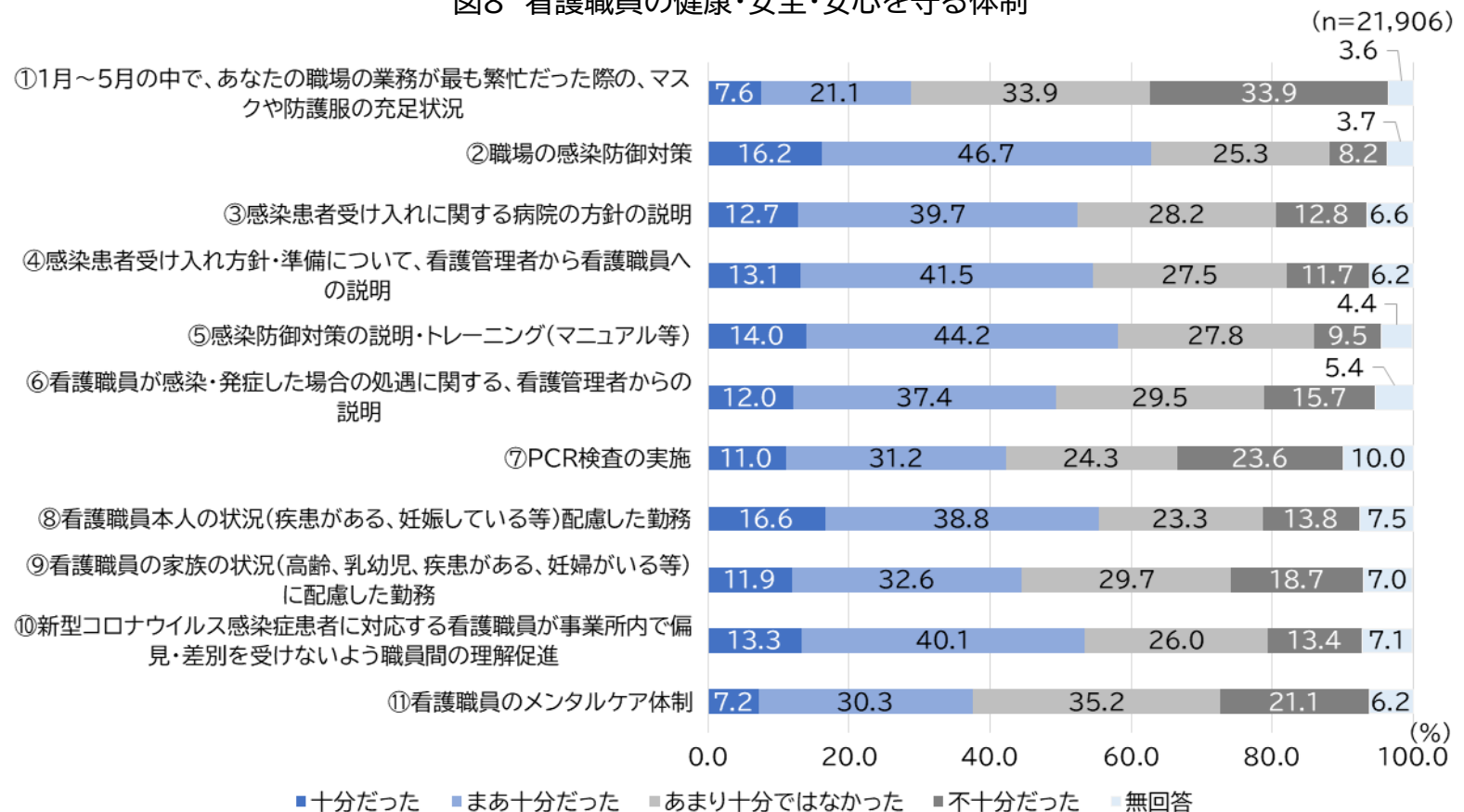
※(図6)現在「就業中」、かつ、コロナ対応業務に「従事した」と回答した21,906人が対象

※(図7)現在「就業中」、コロナ対応業務に「従事した」、かつ危険手当が「支給された」と回答した4,968人が対象

5.看護職員の健康・安全・安心を守る体制(1月頃～緊急事態宣言解除・5月まで)

○①、⑪で「あまり十分ではなかった」「不十分だった」の計が最も多く、⑦⑨が続く

図8 看護職員の健康・安全・安心を守る体制



※現在「就業中」、かつ、コロナ対応業務に「従事した」と回答した21,906人が対象

6.看護職員への偏見・差別

- 感染拡大の影響による看護職員への差別・偏見について、20.5%が「あった」と回答
- 「家族や親族が周囲の人から心無い言葉を言われた」が27.6%を占める

図9 新型コロナウイルス感染拡大の影響による偏見・差別

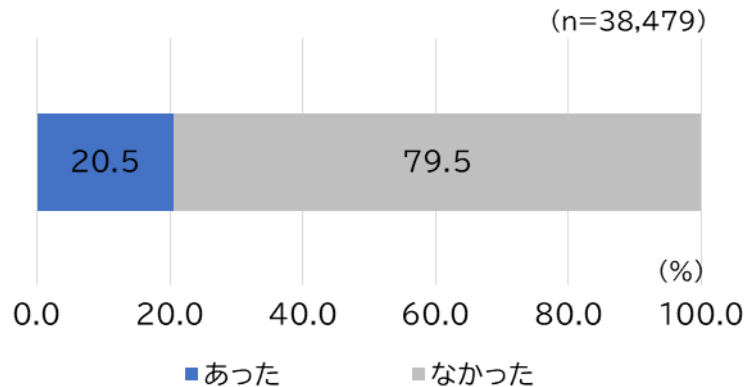
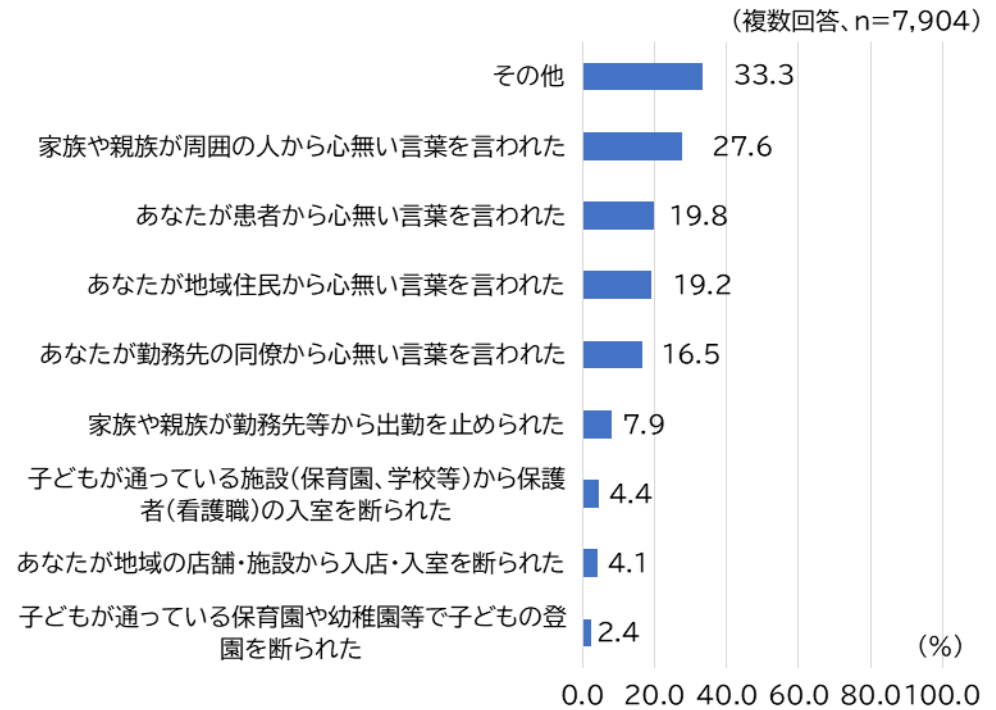


図10 新型コロナウイルス感染拡大の影響による偏見・差別

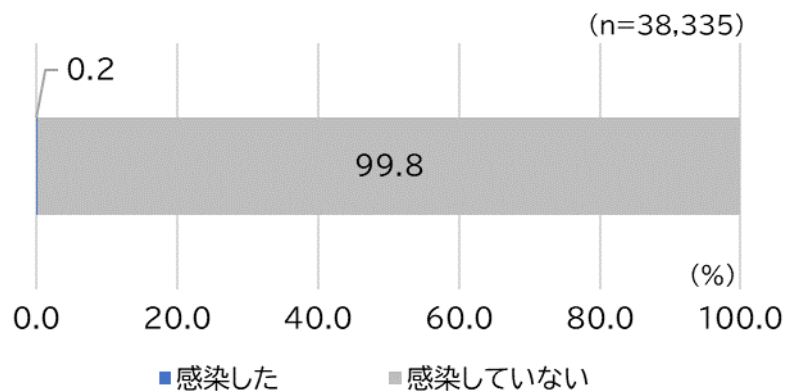


※偏見・差別が「あった」と回答した7,904人が対象

7.看護職員の感染状況

○就業中の看護職員で、新型コロナウイルスに感染したのは0.2%(38,335人のうち、69人)

図11 感染の有無
(「就業中」と回答した38,335人の場合)

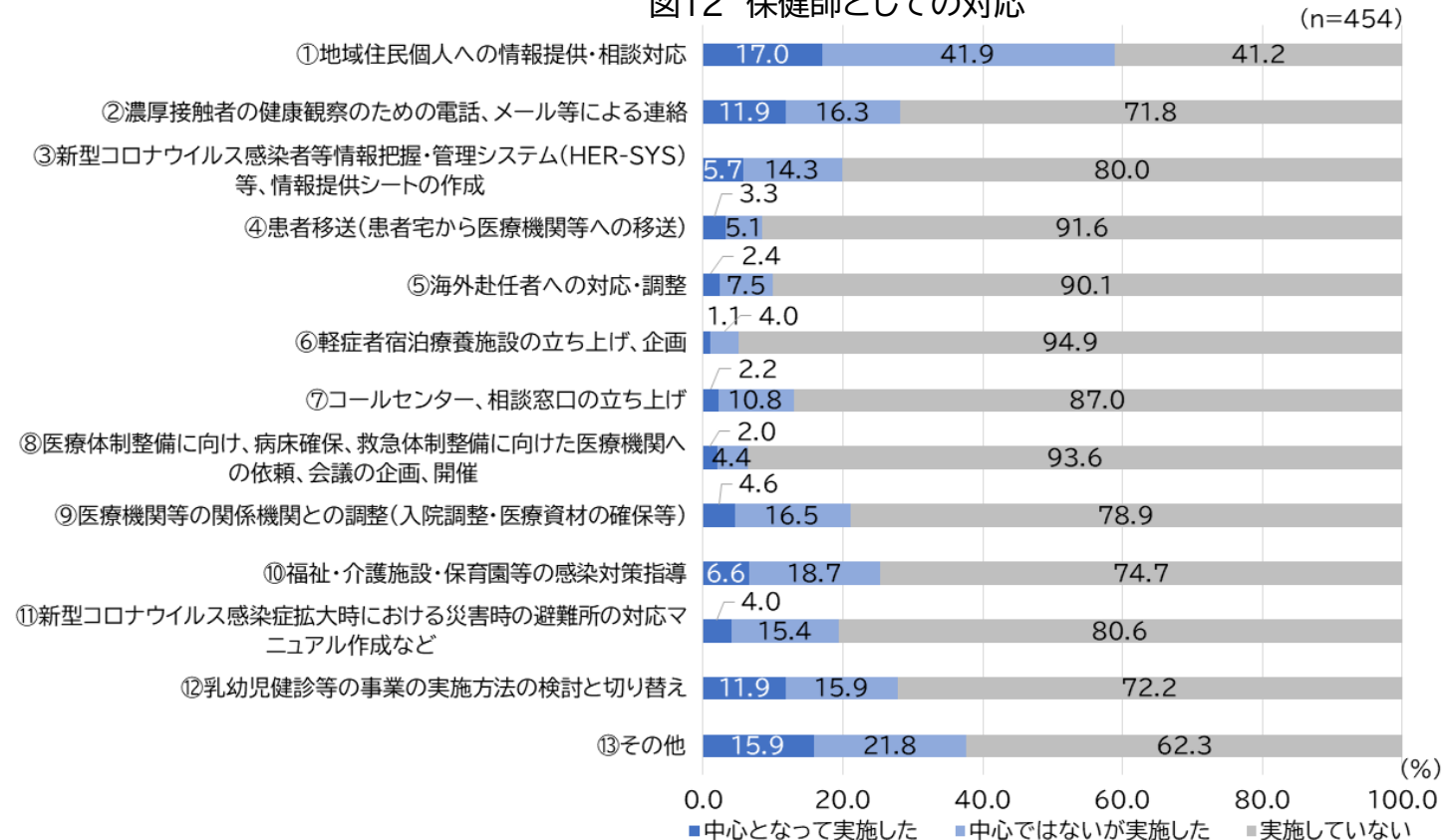


8.保健師の対応

○「中心となって実施した」が最も多いのは、①地域住民への情報提供・相談対応であり、「中心ではないが実施した」とあわせて半数以上にのぼる

○⑬その他、②濃厚接触者の健康観察のための電話、メール等による連絡が続くが、「中心となって実施した」「中心ではないが実施した」の合計が4割弱であり、その他の項目は「実施していない」が最も多くを占める

図12 保健師としての対応



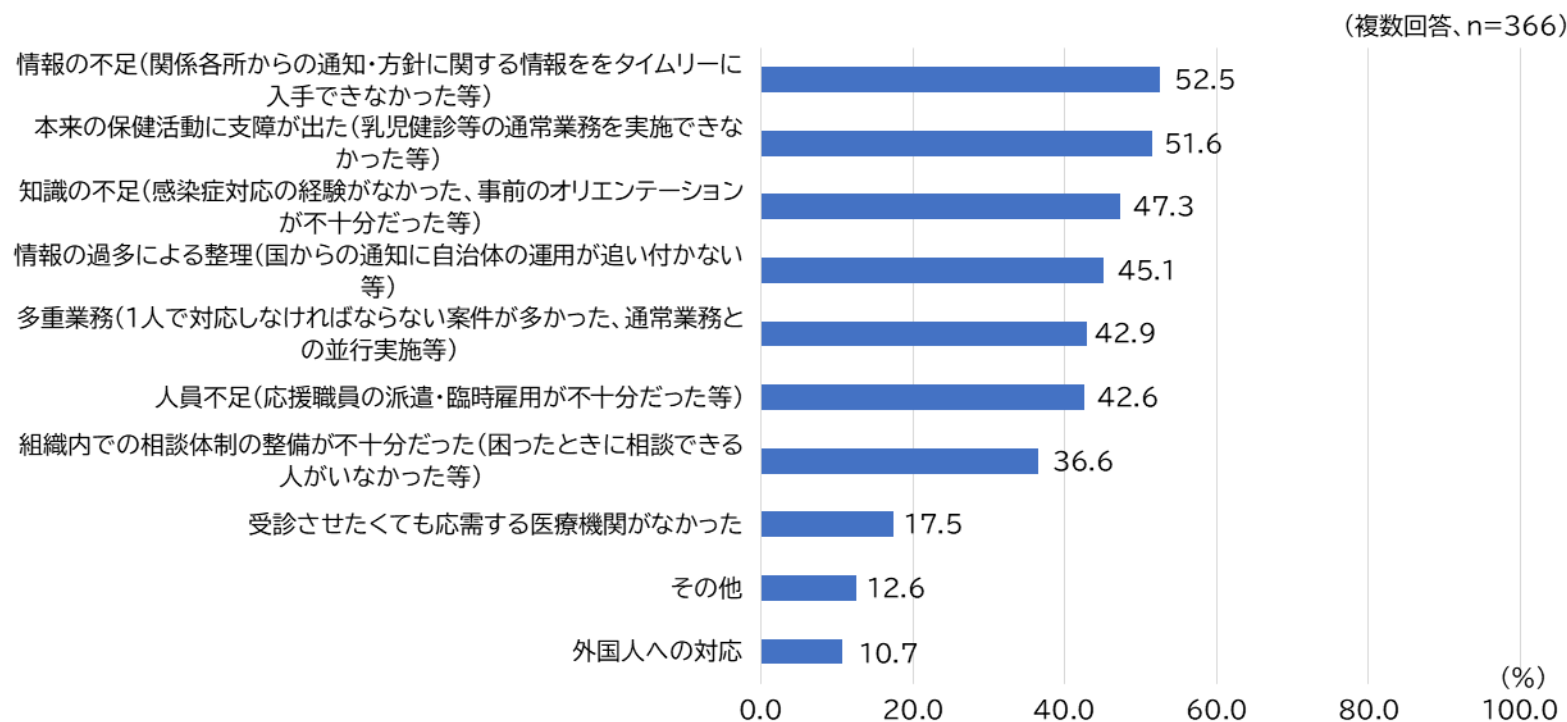
※現在「就業中」、コロナ対応業務に「従事した」、かつ「保健師」と回答した454人が対象

9.保健師として苦慮したこと

○選択肢10のうち6項目で4割以上の回答があり、保健師が様々なことに苦慮したことがうかがえる

○「情報の不足」が最も多く、「本来の保健活動に支障が出た」が続き、これらが5割以上を占める

図13 保健師として苦慮したこと

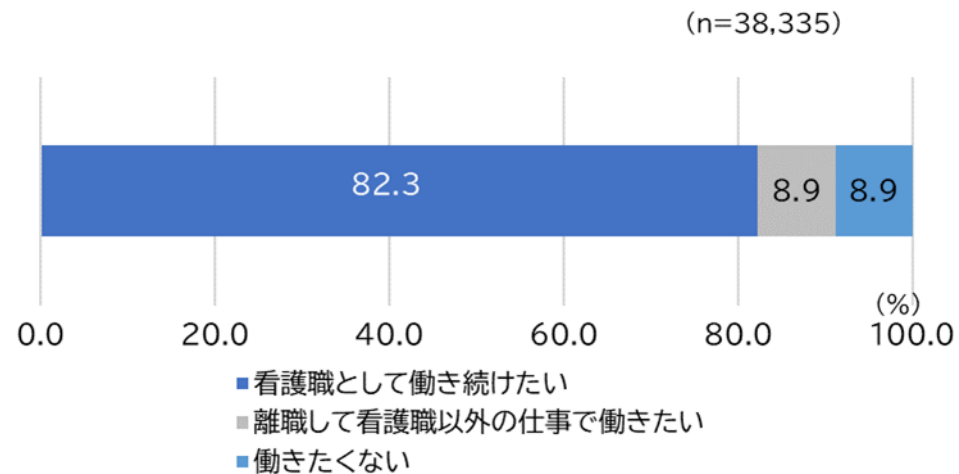


※現在「就業中」、コロナ対応業務に「従事した」、「保健師」、かつ苦慮したことが「あった」と回答した366人の場合

10.看護職としての就業継続意向

○「看護職として働き続けたい」が82.3%を占める

図14 看護職としての就業継続意向



※「就業者」と回答した38,335人が対象